

利尻島における鳥類の新分布の記録 (2010-2011 年)

田牧和広

〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川

Newly Recorded Birds from Rishiri Island, Northern Hokkaido in 2010 and 2011

Kazuhiro TAMAKI

Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

Abstract. Three bird species, *Anas formosa*, *Zonotrichia leucophrys* and *Eophona migratoria*, were newly recorded from Rishiri Island, northern Hokkaido in 2010 and 2011.

筆者により 2010 年および 2011 年に観察された利尻島未記録種 3 種について報告する。観察記録は、観察場所、観察年月日、個体数の順に記し、種の配列、和名及び学名については日本鳥類目録編集委員会 (2006) に従った。

なお、小杉和樹氏 (日本野鳥の会道北支部) には掲載にあたり原稿の校閲をいただいた。記してお礼を申し上げる。

トモエガモ (Fig. 1)

Anas formosa Georgi, 1775

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2011.iv.17, 1

観察場所は、利尻島南部の沼浦地区にある島内最大の沼で、ここには毎年多くの渡り鳥が訪れ、四季を通して鳥類の観察ができる。2011 年 4 月 17 日、筆者はこの沼の湿地と湖面で、吹雪と強風のために渡りができず休むコハクチョウ 4 羽、カワアイサ 2 羽、マガモ 100 羽の群れなどを観察し、さらに沼の中央へ向かって泳ぐ見慣れぬカモ類 1 羽を発見した。カモの顔には黄白色と緑黒色の巴形の特徴ある斑紋が認められ、伸びた黒色の肩羽には栗色と白の羽縁があった。胸は紫褐色で、胸側には白の縦線があることから、本個体はトモエガモの雄成鳥と判

断された (高野, 2007)。翌 18 日、同地を午前 4 時ごろ再び訪れたが、吹雪もおさまり、本個体と観察した鳥は観察されなかった。

トモエガモは、シベリア東部で繁殖し、中国東部、朝鮮半島で越冬する (五百沢, 2000)。北海道では稀な冬鳥で、これまで利尻島では記録がない種であり (小杉, 2000, 2010)、環境省のランクでは、絶滅危惧 II 類に指定されている (北海道新聞社, 2010)。

ミヤマシトド (Fig. 2)

Zonotrichia leucophrys (Forster, 1772)

利尻富士町鬼脇字沼浦, 2011.v.5, 1

観察場所は、利尻島南部の沼浦地区である。この地区は、島内でも数少ない砂浜の海岸とオタドリ沼とを有し、春と秋にはカモ類、サギ類、シギ類等の多くの旅鳥が見られる。2011 年 5 月 5 日、筆者は沼浦地区の海岸近くの草地で餌を採る 10 数羽のツグミの中に、スズメほどの大きさで、頭側線および過眼線が黒く、白い眉班、橙黄色の嘴がよく目立つミヤマシトド 1 羽を見つけた。徒歩で近づくと、そばの立ち木に逃げた後、すぐに 30m ぐらい離れたところに降り、再び餌を採り始めた。10m ほど



Figures 1-3. Birds recorded from Rishiri in 2010-2011.
1: *Anas formosa* (2011.iv.17), 2: *Zonotrichia leucophrys* (2010.v.5), 3: *Eophona migratoria* (2010.v.4).

まで接近し観察することができたが、数分後ツグミの群れが飛び立つと、一緒に飛び去った。前述の特徴のほか、背は灰褐色で黒と褐色の縦斑があり、翼は黒褐色で淡褐色の羽縁があり、三列風切外縁と大雨覆・中雨覆の先端が白かった。頬・頸側・胸・腹は青灰色で、脇はバフ色を帯び、足は淡褐色であった。これらの特徴によりミヤマシトドの成鳥と判断した（高野，2007）。

ミヤマシトドは、北アメリカ北部、西部で繁殖し、冬季は北アメリカ南東部に渡る（五百沢，2000）。北海道では迷鳥とされるが、別海町からの記録がある（高田，1991；藤巻，2000）。本種もこれまで利尻島では記録がない種である（小杉，2000，2010）。

コイカル (Fig. 3)

Eophona migratoria Hartert, 1903

利尻富士町鬼脇字鬼脇，2010.v.4-9，1

観察場所は、利尻島南東部の鬼脇地区にあるパークゴルフ場である。ここは十数年前まで林野であつ

たが、シラカバ、イタヤカエデ、トドマツ、ナナカマド等の木々を残したまま、ゴルフコースが造られた。春の渡りの季節には、ヒタキ類、ツグミ類、アトリ類等の野鳥をコース内で観察できる。2010年5月4日の夕方、筆者はその芝地で餌を採っているコイカル1羽を発見した。嘴が太く橙黄色、頭から顔全体、喉にかけて光沢のある黒色をしており、イカルに似るが少し小さく見えた。そのほかの特徴として、尾は長めで黒く、深い凹型、後頸から背は褐色を呈していた。翼は光沢のある黒色で、風切と初列雨覆いの先端が白く、腰は灰白色で胸から腹は淡褐色を示し、脇には橙色味が見られた。これらの特徴から、本個体はコイカルの雄成鳥と判断された（高野，2007）。この個体は5月9日まで観察され、ナナカマドの梢でさえずったり、逆さの姿勢で桜の芽をついばんだり、ツグミやシメなどと芝地で餌を採る姿が確認された。

コイカルはロシアのアムール、モンゴル、朝鮮半島、中国北東部および中部で繁殖し、冬季は中国南部に渡る（五百沢，2000）。北海道では1988年5月苫小牧ウトナイ湖、1991年5月羽幌天売島、

1992年5月積丹で確認され(藤巻, 2000), 礼文島でも2009年5月16日に観察されている(宮本, 2011)が, 利尻島では今まで記録がない種である(小杉, 2000, 2010).

参考文献

- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83pp.
- 北海道新聞社, 2010. 北海道の野鳥. 北海道新聞社. 387pp.
- 五百沢日丸・山形訓男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥550. 山野の鳥. 文一総合出版. 359pp.
- 小杉和樹, 1989. オタドマリ沼の鳥. 利尻研究, (8): 47-60.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥: 150-155. 北海道新聞社. 札幌.
- 小杉和樹, 2010. 利尻島の野鳥リスト. 利尻島自然情報センター. 自刊.
- 宮本誠一郎, 2011. 礼文島の野鳥. レブンクル自然館. 自刊.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345pp.
- 高田 勝, 1991. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要, (5): 1-19.
- 高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂版. 日本野鳥の会. 374pp.